

SDGsとともに気候危機の時代を乗り越える



川崎市地球温暖化防止活動推進センター

認定NPO法人アクト川崎 副理事長

庄司 佳子



1 気候危機の時代

(1) 温暖化は環境問題か？

少し前までは「温暖化・気候変動」というと、「環境問題だよ」と言われることが多かった。その背中で「私の問題ではない」という声なき声が聞こえてくるように感じたことも少なからずあった。本当にそうだろうか？

私はこれまで環境分野だけでなく、まちづくりやネットワークづくりなどの活動をしてきた。社会のさまざまな課題に触れるたびに、それぞれの課題が複雑に絡み合い、どこかでつながっていることが多いと感じて来た。生命や人権、平和という土台があり、その上に環境、経済、文化や福祉などの活動がのっているというイメージを持っていたが、今ははっきり言えるのは、気候変動は環境の問題だけではなく、生命や健康、平和、経済という社会の主要な構成要素に深く関わっているということだ。そう、SDGsの概念にあるように、課題は複雑に絡み合い相互に影響しあっている。



図1 SDGsの土台を支える5つのP
①人間②豊かさ③平和④パートナーシップ⑤地球
出典：環境省

(2) 温暖化により、気候が大きく変わった

しかし、令和元(2019)年10月の東日本台風を経験した今では市民意識もかなり変化してきたと感じる。温暖化型台風による被害を体験し、目の当たりにしたことで、より身近な問題として人々の口に上るようになった。命の危険や住まい、財産を失い、生活の基盤を失う危機感を感じた方も多いはずだ。東日本台風で、川崎も大きな被害が生じた。「気候が変わった」と多くの人が感じた時だった。「これは一度きりのことではない、100年に一度のことでもない、毎年来る可能性が高くなっている」とも。持続可能な生活が脅かされている地域が増加していると感じる。SDGsのゴールがどれも他人ごとではない状況となった。

(3) 持続可能とは？

川崎市は日本の自治体で唯一グローバルコンパクトに署名しており、それを独自に川崎市の中で展開し「かわさきコンパクト」(2008～2018年)という取り組みを実施していた。事業者はビジネスコンパクトとあって、自社の労働、人権、コンプライアンス、環境、などについて率先して取り組むことを自主的に誓約し、市民もまた市民コンパクトを誓約するという先進的なもので、私は当初からこれに関わってきた。

そこで大事なことは、自らが意識的に取り組むこと。事業活動だけが持続可能で健全であることは難しく、同時に、そこに暮らす市民の生活も健全でなければならない。その逆もまた然りだ。健全な社会がなければ持続可能な事業活動は継続しないし、事業者と市民がともに努力し成長しなければ、持続可能な社会は作れない。そういう表裏一体のものだと強く感じた。持続可能な社会は、市民にとっても事業者にとっても、力を惜しまず協力しながら作り上げていくものだ。

2 川崎市センターの取り組み

(1)川崎市地球温暖化防止活動推進センターの役割

川崎市地球温暖化防止活動推進センター（以後、川崎市センター）は、平成22（2010）年に川崎市が設置したもので、温暖化防止活動の中心的取り組みを推進している。活動拠点は高津区溝口の高津市民館内のCCかわさき交流コーナーである。

川崎市センターの受託団体に指定された認定NPO法人アクト川崎は、多くの市民団体、事業者、学校、行政と連携しながら、環境保全、地球温暖化対策の活動を推進するとともに、SDGs・ESD(Education for Sustainable Development)に関する情報発信・普及啓発活動、環境分野・まちづくり分野を中心とした人材育成、活動支援を通して、持続可能な社会の実現に取り組んでいる。

(2)SDGsについて学ぶ

2000～2015年が期間となるMDGsから2016年からのSDGsへと移行したあたりから、市民もSDGsに触れる機会が多くなってきた。

川崎市センターは、SDGsについて比較的早い時期からさまざまな立場の人と、まずはともに学ぶところから始まった。

初めに、事業者向け講座「今から始めるSDGs～持続可能な開発目標～」を講師 星野 智子氏(一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事)により平成28(2016)年12月に開催し、SDGsビジネス向け入門編として、SDGsの基礎、SDGsと企業・ビジネスの関わり、SDGコンパスについて、講義を受けた。

続けて、市民団体向け講座「～笑顔で迎える未来のために～地域主体の持続可能な社会作り…今求められ



市民団体向け講座の様子

ている市民団体の力とは何か？」を講師 黒田かをり氏(一般財団法人CSOネットワーク事務局長・理事)により平成29(2017)年1月に開催した。SDGsの基礎、市民団体と企業の取り組みの紹介の後に、ワークショップ「あなたの出来ること」として、自らの取り組みとSDGsを紐づけてみた。

参加者の感想に、

- 色々なテーマ(ゴール)が結びついていることが印象に残った。
 - 異分野でつながる楽しさ、面白さを身近に感じる事ができたと思う。
 - SDGsは、特に新しいものではなく、考え方の枠組みを変えてこれまでやっていることを続けいけばいいと分かったこと。
- などがあり、徐々に市民に浸透していく様子が伝わってきた。

(3)知ってもらうから概念を広めるへ

その他にも、まずはSDGsのゴールを知ってもらうために、ゴールとターゲットの紹介や、すごろくを床面に貼り遊びながら知る工夫や、クイズでターゲットや新たな取り組みについて関心を持つ機会を用意した。スタッフ一丸となって、温暖化をSDGsの視点から捉えなおし、接点を浮き彫りにするように工夫した。



ゴールとターゲットの紹介・クイズ

| | |
|--------|-------------------|
| 3・4月 | CSRとSDGs |
| 5・6月 | SDGsの最新状況 |
| 7・8月 | SDGsと子ども |
| 9・10月 | 物流、宅配、交通 |
| 11・12月 | 温暖化月間、市民・事業者パネル展示 |
| 1・2月 | 防災、エシカル消費、プラスチック |

表1 令和元年度センター展示テーマ(SDGsとのつながり)

(4)具体的な取り組み

川崎市センターでは、かねてから温暖化対策の中で環境教育や広報活動に力を入れてきたが、より市民に伝わりやすい暮らしにアプローチしたメッセージを発信する事が急務と感じていた。

例えば、ゴール1にある貧困という現実もなかなか身近なものとして認識出来ていなかったが、厚生労働省の報告書(2015年)によると、日本の子ども(17歳以下)の相対的貧困率は13.9%(7人に1人が貧困状態)と高いことに驚いた。地域社会のつながりも希薄な中で、社会格差が見えにくくなり、かつ広がっていることに、

改めて驚いた。

温暖化対策とゴール1をテーマに、「何かアプローチできるものはないか?」と考えた時に、いつも立ち返るのは自分たちのフィールドである。

この時に川崎市センターで始めたことのひとつが、「シェアリングエコノミー」であった。ゴール1とエネルギー、物流、所有の課題を考えたときに、無駄に捨てられているあるいはまだ活かされていない資源の有効活用が出来ないか考え、始めたのが、ゴール12と組み合わせた「Xチェンジ」「衣類の交換ボックス」、少し遅れて始まったのが「フードドライブ」だった。

「Xチェンジ」とは、家庭の中で自分には不要になったもので捨てるには惜しいものを持ち寄ってもらいチケットを介在させて、他の人のものと交換する仕組みだ。「もったいないと思っていた」「ぜひ参加したい」という多くの方の賛同をいただき、現在年に2回開催している。

「衣類の交換ボックス」も同じ発想から生まれたもので、高津市民館には多数の親子が訪れる。すぐに着られなくなる子どもの洋服類は交換したくても、使ったものはなかなか人に譲りにくく声をかけられない、知り合いも少ないという現代社会の抱える課題も見えてくる中で、ボックスを介在することでシェアがしやすくなった。子ども向けのものだけを常設で交換できるようにしてみたところ、口コミで広がり、多数の方に活用いただいている。

「フードドライブ」は、川崎市環境局からの依頼で令和元(2019)年9月から開始した食品ロス対策で、自宅で食べきれない食品を持ち込む方が毎日のように来館している。これらもいくつかのSDGsのゴールに関係がある。こうした具体的な取り組みを通して、SDGsを伝える努力をたゆまず行いたい。

その他にも、ゴール17「パートナーシップ」に関する取り組みとしては、市民と事業者をつなぐエコなプラットフォームを目指した「エコぶらっとかわさきC3」(3つのCは、cooperation/citizen (consumer) / companyの頭文字)を推進し、事業所の施設見学ツ



フードドライブ



衣類交換ボックス

アーの開催：年2回バス見学会(親子・大人)の他、事業者と市民の意見交換会「川崎の発電施設」平成23(2011)年をはじめとして、「事業者の環境の取り組み」「社員への環境教育」などのテーマで意見交換会などを開催し、協働で出来ることを模索してきた。

また、市民団体と事業者の取り組み展示及びパネルセッション「エコ・クロスマッチング」の中でも最近では各団体が解決を目指しているSDGsのゴールを表記し、SDGsというツールを使って、お互いを理解したり、協働するきっかけにすることもある。環境団体の6~7割がSDGsのことを何らかの関わりがあり、目指すべき目標を示唆するものとして認識しているといえるだろう。

こうしたSDGsへのアプローチから、市の教育委員会、青年会議所などとの連携も始まったが、今後ネットワーク化し、協働の取り組みへと発展することが期待されるだろう。

3 市内の市民団体の取り組み

(1)環境と社会を結ぶ課題が見えてきた

以前から、私たちが小学校などへの環境学習の中で伝えたいと思ってきたフェアトレード、MSC、エコラベルなどの認証やマークの裏には、環境保全という問題だけでなく、児童就労に関する人権や働き方、しいてはまちづくりや社会にもつながる要素がたくさん含まれていた。それを環境という範疇のみで伝えると意味合いを狭めてしまわないかという危惧があった。最近では小学校の方からフェアトレードやFSC認証(森のエコラベル)、MSC認証(海のエコラベル)、食品ロス、海洋プラスチックの課題などにも積極的に目を向けるようになってきた。SDGsはこれらの課題を語るのに、ゴールを提示しつつ、つながりを意識させてくれる最適なツールとなるだろう。

(2)タグ付けから始めよう

自分たちの取り組みは、17のゴールの中の1つか2つにすぎないが、それが他のゴールを支えたり、後押しすることもあることを、もっと意識していくべきだと思う。それがゴールのつながりであり、SDGsの素晴らしいところだ。

また、複数のゴールを活動の柱に置くことで、違う視点からのアプローチが可能になる。活動する中で行き詰まり解決が見えてこない課題にぶつかることは

多い。そうした時に、別のゴールからのアプローチを検討したり、そのゴールに精通している団体を探しアドバイスを求めるなど活路を見出すツールともなる。

表2に、令和元年(2019)年秋に「市民・事業者の環境の取り組み」パネル展示で展示をした市内事業者、環境団体のSDGsのゴール一覧を掲載する。まずはタグ付けから始まり、複数のゴールを意識した取り組みを展開する団体も出てきている。

(3)地域ESD活動推進拠点に登録

アクト川崎は、令和元(2019)年、神奈川県のおすすめ「かながわSDGsパートナー」に登録された他、学校教育・社会教育の現場でのESDを支援する拠点として、地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)に登録された。ESDとは、新学習指導要領2020にもあるように、子どもに考えさせ、判断させ、児童・生徒主体の学びとすることや、話し合いやグループ活動など協働的な学び、問題解決的な学習過程などを目指すものである(図2)。

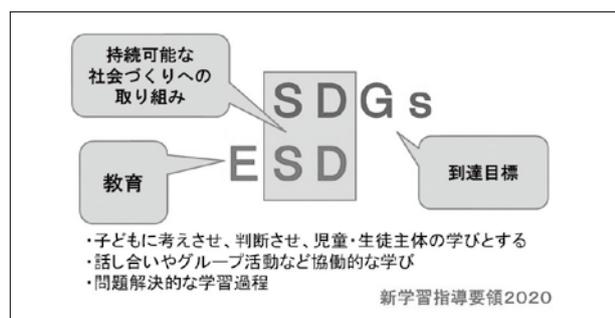


図2 持続可能な開発のための教育ESD

4 市民目線のSDGs

SDGsは、市民がこれからの未来・まちづくりを語る時に、もっと使っていきべきツールだ。視点の多彩さ及び見える化は、地域ごとのいくつかの課題を同時に

解決するための共通言語になる。市民は今何をすべきかと考えるとき、脆弱になったといわれる地域のつながりを取り戻し、質の高い持続可能な地域づくりに寄与したいと思って活動する市民は増えてきていると感じている。地域というベースの上で生活する私たちの、そうした思いを形にして、未来の姿をイメージしていくことはとても大事なことだ。

今、若者たちが声を上げ始めている。世界中に広がった「グローバル気候マーチ」が日本でも行われたが、それを呼びかけた高校生、大学生たちを招いて、令和2(2020)年1月11日にパネルディスカッション「気候危機の時代に生きる 私たちは地球温暖化とどのように向き合うか?」を開催したところ、多くの市民が集まり、若者の声に耳を傾けた。

さらに、市内の小学校では子ども達が、まちの人々にSDGsについて知ってもらおうと活動を始めている。温暖化のことは多くの人が実感しているが、SDGsのことはほとんどのまちの人々が知らないと答えたことにショックを受けて活動を開始したということである。

私たちは、若者たちの気づきや思いを受け止め、気候危機といわれる時代を、SDGsを見据えながら乗り越えていきたいと考えている。「環境のこと…」と後回しされないための情報提供を行い、ネットワークづくりや地域での実践につなげることが急務だ。

さらに私たちがやるべき事は、気候変動への取り組みと地域の抱える課題を併せて解決する道筋を見つけることだ。地域課題の解決を模索する時に、SDGsのつながりを意識しつつ、同時にいくつかの地域課題に協働して取り組む実践が求められている。それは、より多くの人の共感と協力を得ることによって実現する。健全で持続可能な社会は約束されているものではない。後退することなく私たちの手で作り続けるものだと考える。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|-----------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 省エネグループ | | | | ● | | | ● | | | | | | ● | | | | |
| 矢上川で遊ぶ会 | | | | | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | ● |
| CCさいわい | | | | ● | | | | | | | | ● | ● | | | | ● |
| 3R推進プロジェクト | | | | | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | ● |
| 川崎地域エネルギー市民協議会 | | | | | | | ● | | | | | ● | ● | ● | ● | | ● |
| NPO法人みどりなくらし | | | ● | | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | ● |
| NPO法人多摩川エコミュージアム | | | | ● | | | ● | | | | | | | | ● | | ● |
| 川崎サバイバル | | | | | | | | | | | | | | ● | | | ● |
| EM普及活動研究会 | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 麻生区クールアース推進委員会 | | | | | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | ● |
| CCたかつ | | | | ● | | | ● | | | | | | | | ● | | ● |
| CC中原・地球にいいことプロジェクト | | | | | | | | | | | | ● | | | | | ● |
| マルイファミリー溝口・ノクティプラザ | ● | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 株式会社渡辺土木 | | | | ● | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| むくむくはうす | | | ● | ● | ● | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 佐野デザイン事務所 | | | | | | | | | | | | ● | | | | | ● |
| 日本電産(株)中央モーター基礎技術研究所 | | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| かわさき田と緑の科学館/川崎市環境局環境調整課/川崎市公園緑地協会 | | | | | | | | | | | | | | | ● | | ● |

表2 市民団体・事業者の目標とするSDGs